9/16 福井

県内高校で感染拡大

予防的休校措置も

新型コロナ・インフル同時流行

学校祭期間中 一気に

福井県内でインフルエンザと新型コロナウイルスが同時流行し、高校では夏休み明けの学校祭期間中に感染が一気に広がるケースが相次いでいる。先輩の就職活動や部活動の大会などを考慮し、感染拡大前の「予防的措置」として休校を決めた学校もある。

（山川智平、宮崎翔央）【1、4面に関連記事】

県感染症発生動向調査速報によると、10日までの1週間に県内の定点医療機関から報告されたインフルエンザ患者は前週比1・83倍の計55人で、1定点当たり1・41人となり、流行開始の目安となる1・00人を上回った。同時期の新型コロナの報告は前週比1・28倍の計633人で1定点当たり16・23人。7月17～23日以降8週連続で、インフルエンザで注意報を出す基準の10・00人を超えている。

報告された感染者を年代別にみると、定点医療機関に小児科が含まれている影響もあるが、インフルエンザは55人のうち10代以下が50人、新型コロナも633人のうち402人に上る。

8月末に学校祭を行った県立高では、連休を挟んだ9月上旬の登校日に発熱などの症状で150人以上が欠席した。多くが新型コロナとみられ、その日の午後から臨時休校とした。同校関係者は「準備期間中は感染者は多くなかったが、学校祭が終わってから一気に増えた」と話す。

別の県立高では、学校祭後にインフルエンザとみられる欠席者が増え、9月上旬に数日間休校した。多くの県立高では8月下旬～9月上旬に学校祭があり、ほかにも休校した学校が複数あるとみられる。

ある私立高は9月に入ってから学校祭を実施。他校で休校などの措置が取られている状況を考慮し、最終日の翌日から3日間休校とした。同校の担当者は「校内での感染拡大を最小限に抑えるための予防的措置」とし、「16日から高校生の就活選考が解禁され、今後も部活動の大会や推薦入試など大切なイベントが次々とある。そういった大事な場面に臨めなくなるのは避けたい」と話した。

県保健予防課によると、15日午後2時までに小浜市の高校など1校でインフルエンザによる学級閉鎖1件の報告があった。8月29日以降の累計は「休校」が高校などで1件、「学年閉鎖」が小学校1件、「学級閉鎖」が高校などが8件、中学校で6件、小学校で1件となっている。

福井市内の小児科医は「現場の体感としては新型コロナとインフル（の患者）は9対1ぐらい」とした上で「両方検査できるキットの普及やインフルに対する免疫力が低下していることも、現在の流行の要因と考えられる」と話した。

5類のコロナ学校休業情報

国基準なく非公表

県対応検討

福井県はインフルエンザによる休校や学級閉鎖といった臨時休業の情報を公表している一方、新型コロナウイルスに関しては、国が基準を定めていないとして明らかにしていない。ともに感染者が増加する中、「同様の対応をすべきだ」との指摘もあり、県は新型コロナに関しても公表を含めて今後の対応を検討している。

インフルエンザによる学校の臨時休業は、国が流行を把握する調査（サーベイランス）の一環で各都道府県に報告を求めている。県はこれに合わせ、学校の所在地や種別、措置の内容、件数などを公表している。

新型コロナは同様の調査や情報提供のガイドラインがないという。

「感染症法上の位置付けがインフルエンザと同じ5類となったのに、新型コロナの休校の情報が新聞に載らないのはなぜか」との声が、福井新聞の調査報道「ふくい特報班」（通称・ふく特）に寄せられている。他県では独自に臨時休業の情報を提供しているところもある。

県保健予防課の担当者は「臨時休業の情報は流行状況を知らせるデータにもなると考えており、国の基準にこだわらず検討していきたい」と話している。

（山川智平）